

平成 22 年 6 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18520286  
 研究課題名（和文） アラブ・ペルシア文学における異形の表象の比較研究  
 ——越境者アレクサンドロスを追って  
 研究課題名（英文） A Comparative Study of Mirabilia in Arabic and Persian Literature  
 : Alexander, the Seeker Beyond Borders  
 研究代表者  
 山中 由里子（YAMANAKA YURIKO）  
 国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授  
 研究者番号：20251390

研究成果の概要（和文）： イスラーム世界の拡大とともに、統治や旅行のために必要な情報が 9 世紀後半頃からアラビア語の地理書・旅行記にまとめられ、さらに中央アジア、インド、中国、東南アジア、あるいはアフリカといった周縁の地に対する好奇心や知識欲も増大し、「驚異譚」の類も現れた。これらの書の中でアレクサンドロスが、既知の世界と未知の世界を結び、異境の地に関する情報をもたらした偉人という重要なトポスとして繰り返し登場することを明らかにした。

研究成果の概要（英文）： As the Islamic world expanded, information that was necessary for travel and the governance of the vast empire was gathered, and around latter half of the 9<sup>th</sup> century, geographies and travelogues in Arabic began to be compiled. In addition, increased interest and curiosity towards the peripheral lands, such as Central Asia, India, China, South East Asia, or Africa, lead to the appearance of the “tales of marvels.” In these works, Alexander emerges as one of the earliest historical figures who gathered information on marvels of distant lands, linking the known and the unknown worlds.

交付決定額

(金額単位：円)

|         | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2006 年度 | 1,000,000 | 0       | 1,000,000 |
| 2007 年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2008 年度 | 700,000   | 210,000 | 910,000   |
| 2009 年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度      |           |         |           |
| 総計      | 3,400,000 | 720,000 | 4,120,000 |

研究分野：比較文学・比較文化

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：(1)比較文学、(2)アレクサンドロス、(3)博物誌、(4)地理書、(5)旅行記、  
 (6)異形、(7)アラブ、(8)ペルシア

## 1. 研究開始当初の背景

「中世イスラーム世界におけるアレクサンドロス伝承の検索システム構築」(奨励研究A、後に若手研究B、平成13~14年度)の研究期間中に、アラビア語・ペルシア語の宗教書、歴史書、地理書、教訓書、叙事詩など、多岐にわたる一次資料中に散在したアレクサンドロス伝承を検索できるデータベースの枠組みを設計し、主に宗教・歴史関係の原典テキストの収集、解析を完了した。

さらに、「欧米・日本におけるアラビアンナイトの受容と中東イスラーム世界イメージ形成」(基盤研究A・代表 西尾哲夫 平成14~平成17年度)に分担者として関わり、中東の文学における異国の描写、冒険譚などについて考察した。

これらの研究に関わりながら、本研究課題がその重要な一環となる大きなテーマ設定の枠組みを構築してきた。従来の研究で分析を行ってきた宗教・歴史関係の資料に、博物誌的な情報も一部含まれており、本研究において重要な検討事項、モチーフなどの摘要を以前から作成していた。

イスラーム教徒がアレクサンドロスを未知の世界と最初に遭遇し、そこに神の真の教えを広めた「ムスリム」王として描き、その宗教の拡張と深く関わる人物として認識していたことはそれまでの研究で明らかにしてきた。その成果は、イスラーム教が広がった地域の人々が、その辺境の世界をどのように想像し、理解しようとしていたかを考察する本研究に十分に活かされた。

## 2. 研究の目的

研究代表者は、アレクサンドロス大王の死後に古代世界において蓄積された彼にまつわる様々な言説が中世イスラーム世界へどのような伝播経路を通じて伝わり、その情報がイスラーム勃興からモンゴル侵攻までのアラブ・ペルシア文学においてどのように展開したかを比較文学的観点から研究してきた。

アラビア語、ペルシア語圏の著述家たちが描いたアレクサンドロスは、重要な歴史上の人物であっただけでなく、時に預言者であり、君主の鑑、探求者、また物語の英雄でもあった。これまでの研究では、様々な文献に散在するアレクサンドロスの多様な「顔」を、歴史、宗教、地理・博物誌、教訓、物語等といった分野に系統立てる作業を行い、その一部の結果を博士論文においてまとめた。博士論文では主に、アラブ・ペルシアの著述家たちのアレクサンドロスに関する情報源を古代世界に遡って明らかにした上で、イスラーム

世界におけるアレクサンドロスの神聖化とその歴史意識におけるアレクサンドロスの位置づけについて考察した。

本研究課題では、同論文の範囲外となったアラビア語・ペルシア語の地理書・博物誌・旅行記、物語などの分野に焦点をあて、アレクサンドロスに関する記述を中心に、「異形」、「異界」の表象を探った。

アラブ・ペルシア文学においてアレクサンドロスは、既知の世界の境界を越えて、通常の間が辿り着くことのできない異界を探访した太古の偉人という一側面をもつ。アレクサンドロスは陽の昇る処、陽の沈む処、ジブラルタル海峡やセレンディープ(セイロン)といった「この世の果て」をもさらに越え、暗闇の国、天空、海中などに遠征したとされている。この間に彼が見た不思議な動植物(人間の頭のなる木など)、出会った奇異な民族(犬頭人、人魚など)の描写は、当時の読者の博物誌的な好奇心を満たすものであり、イスラーム教が広がった地域の人々の世界観を表すものであった。

本研究の第一の目的は、初期イスラーム時代からモンゴルの侵攻までのアラビア語・ペルシア語関連一次資料を網羅的に調べ、エピソードの集成を作り、翻訳し、そこからモチーフを抽出することである。

第二の目的はこれらのエピソードの歴史的起源を探り、その情報源と伝播経路を明らかにすることである。特に、古代ヘレニズム文学との関連を調べる。

第三には、これらの情報の時代的、地域的な特色を比較分析することであるが、それには、地理学、博物誌というジャンル自体の発展史の枠組みをまず構築しなければならない。これらの書を記した知識人たちの情報の収集方法を、西アジアの交易、巡礼・布教活動、学術交流、政治などの移動ネットワークを考慮しながら明らかにする。

このように、本研究の目的は、アラブ・ペルシア文学におけるアレクサンドロスと辺境、または異界との結びつきの象徴性について、多様な資料を総合的に検討する。未知の世界を描写する際の文学的なトポスとして、アレクサンドロスがどのような役割を果たしていたかを明らかにすることは、アレクサンドロス研究に貢献するのみならず、卓越した歴史的人物が後代のテキストにおいて、どのように表象されるかという問題のケーススタディともなる。

## 3. 研究の方法

初期イスラーム時代からモンゴルの侵攻までのアラビア語・ペルシア語関連一次資料(地理書、博物誌、旅行記、物語等)を網羅的に調べ、アレクサンドロスが遭遇したこの

世の不可思議にまつわる断片の所在を確認した。所属機関や国内の図書館で入手が難しい資料はフランス、ドイツなどの大学図書館で調査した。幅広い時代にわたるため、関連分野の既存研究を参照し、なるべく多くの作品から関連の情報を抽出した。そしてこれらの原典テキストを翻訳文ともに、データベースに入力してきた。

上記の作業を続行すると同時に、それらのテキストから主要なエピソード、モチーフを抽出し、その歴史的起源を探り、その情報源と伝播経路を明らかにしてきた。特に、古代ヘレニズム文学との関連を調べ、ギリシアの自然科学知識、空想世界が継承された過程を探った。

古代ギリシア後期の世界観と異形の表象が、アラブ・ペルシアの著作にどのように継承され、変容しているか比較した。初期のイスラーム教徒の情報源であったユダヤ教徒やキリスト教徒（ビザンティン・ローマ）の世界観のフィルターも考慮した。また、他の文化圏（イラン、インドなど）からの影響についても考察した。さらには、アレクサンドロスの東方での自然科学調査の歴史的実態も明らかにし、このような空想的なエピソードの歴史的核心に遡った。

#### 4. 研究成果

アラビア語・ペルシア語の一次資料を、国内外の図書館で調査し、アレクサンドロス伝承に登場する「異形」の表象を収集、翻訳した。同時に、西アジアにおける交易、巡礼・布教活動、学術交流、政治等の移動ネットワークの歴史的コンテクストを解明し、同地域における地理学・地図学の発展を追った。イスラーム世界の拡大とともに、統治や旅行のために必要な情報が9世紀後半の頃から地理書にまとめられるようになり、さらに中央アジア、インド、中国、東南アジア、あるいはアフリカといったイスラーム世界の辺境の地に対する好奇心や知識欲も増大し、「驚異譚」の類もあらわれた。これらの作品の中でアレクサンドロスは、異境の地に関する情報をもたらした、いにしへの偉人という重要な文学的なトポスとして繰り返し登場する。本研究の成果は、本年7月にイギリスのエクセター大学で行われるアレクサンドロス伝説関連のシンポジウムで口頭発表する。さらに、論文として『西南アジア研究』に発表する予定である。

さらに先行研究をふまえて、ヨーロッパや東アジアの文学との比較をする際の方法論的枠組みを検討するとともに、この課題を今後さらに学際的な共同研究として発展させるた

めに、国内外の研究者とのネットワークを強化するよう努め、日本・フランス・ドイツ・イランなどの研究機関で進められている具体的なプロジェクトとの連携を探ってきた。具体的には、18年度にはパリにある人間科学研究所の招へいを受け、ペルシア散文物語専門家のマリナ・ガイヤール氏や、アラビアンナイト研究のマルガレット・シロンバル氏などと研究交流を行った。19年度には、コレージュ・ド・フランスのピエール・ブリアン氏（古代イラン史）の招へいでパリに滞在し、アケメネス朝およびヘレニズム研究の大家である同氏と学術交流を行うことができた。さらに、20年度には、ドイツのマルブルグ大学で開かれた国際ワークショップ「文化・商業・人の移動の十字路口—大陸と海のシルクロードの比較」に参加し、アメリカ、ドイツ、スイスなどから集まった歴史・美術・考古学の専門家たちと、西アジアと東アジアを結ぶ交易、巡礼・布教活動、学術交流、政治などの移動ネットワークの歴史的文脈の解明につながる、興味深い議論を交わした。

これらの活動の結果、本研究を拡大・発展させた新規の研究課題の構想をまとめ、「中東およびヨーロッパにおける驚嘆文学の比較文学的研究」と題し、科学研究費補助金（基盤研究B）の交付を受けることが決定した。

この新規のプロジェクトは、中東のみならずヨーロッパの古代・中世・近代の歴史や文学の専門家から構成されている。驚異譚の中でも中東とヨーロッパに特に広く分布し、古代・中世・近世を通じて継承されていた物語・逸話・モチーフが何であったかを、共同研究において検証する。さらに驚異譚の語りの形体（書簡体、見聞記、博物誌等）についても比較分析する。このように異分野の専門家とともに、様々な文化圏の異形の表象を比較し、相対化するための研究基盤をつくることができたことは大きな成果の一つである。

なお、本研究期間中に刊行した拙著、『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ』（名古屋大学出版会、2009年）が島田謹二記念学芸賞、および日本比較文学会賞を受賞した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 山中由里子「イランのイスラーム化、イスラームのイラン化」、森茂男編『イランとイスラーム』春風社、2010、270 - 283. 査読無

- ② Yuriko Yamanaka 《 Les modes de transmission du savoir : Alexandre le Grand et l' évolution de l' historiographie arabe 》 in *Les Outils de la pensée*, Akira Saito ed., Paris : Maison des sciences de l' homme, 2010, 99-110. 査読有
- ③ 山中由里子 「紙の辿った道——中国とヨーロッパの狭間のイスラム世界」, 齋藤晃編『テキストと人文学——知の土台を解剖する』人文書院, 2009, 195-208. 査読無
- ④ 山中由里子 「涙壺」, 今関敏子編『涙の文化学—人はなぜ泣くのか』青簡社, 2009. 104-115. 査読無
- ⑤ Yuriko Yamanaka 《 Un héros aux mille et un visages: classification des récits sur Alexandre dans la littérature médiévale arabe et persane 》 Aboubakr Chraïbi ed., *Classer les récits : Théories et pratiques*, 2007, 241-256. 査読無
- ⑥ 山中由里子 「初期イスラム時代の歴史認識におけるアレクサンドロス」『比較文学研究』87, 2006, 17-40. 査読無
- [学会発表] (計 8 件)
- ① Yuriko Yamanaka “The Arabian Nights in Traditional Japanese Performing Arts,” *The Arabian Nights: Encounters and Translations in Literature and the Arts*, 2009. 12. 15-17, New York University Abu Dhabi, UAE.
- ② Yuriko Yamanaka “Birth of the Novel in Iran and Japan: a Comparative Study ” *Societas Iranologica Europaea Mid-Term Conferene: How to Write the History of Modern Persian Literature*, 2009. 7. 12, Bamberg University, Germany.
- ③ Yuriko Yamanaka “The Tear Bottle Quest - European Perceptions of the Biblical Orient and Iranian Shiite Ritual” *Mythen und Realitäten: die Beziehungen zwischen Europa und dem Nahen Osten*, 2009. 7. 2, Center for Near and Middle East Studies, Marburg University, Germany.
- ④ 山中由里子 「アレクサンドロス変相—古代から中世イスラムへ」比較文明学会関西支部第8回例会, 2009. 2. 14, 国立民族学博物館 (大阪府).

- ⑤ 山中由里子 「誰がために涙を溜める? <涙壺>の真相を追って」関西イラン研究会, 2008. 12. 6, 大阪大学箕面キャンパス (大阪府).
- ⑥ Yuriko Yamanaka “Migrating Narratives: Fragments of the Islamized Alexander Romance in Chinese Geographies and Encyclopaedias” *Crossroads of Culture, Commerce, and Human Movement Continental and Maritime Silk Routes Compared*, 2008. 11. 1, Marburg University, Germany.
- ⑦ Yuriko Yamanaka 《 D' Alexandre à Iskender ou la fortune du Roman d' Alexandre en Orient 》 *Trésors du patrimoine écrit*, 2008. 6. 3, Bibliothèque nationale de France — Institut national du patrimoine, Paris, France.
- ⑧ Yuriko Yamanaka “Imitatio Alexandri in Ghaznavid Panegyrics and Historiography” 6<sup>th</sup> European Conference of Iranian Studies, 2007. 9. 21, Vienna, Austria.

[図書] (計 1 件)

- ① 山中由里子, 名古屋大学出版会、『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラムへ』2009、586 頁

[その他]

ホームページ等

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18520286.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山中 由里子 (YAMANAKA YURIKO)  
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授  
研究者番号：20251390

### (2) 研究分担者

無し

### (3) 連携研究者

無し